

SL復元に向けた現在までの取組

① SL復元の目的

リニア中央新幹線の開業がもたらす大きなインパクトを契機に、SL復元運行を通じて地域の産業強化と活性化を目指すことを目的とする。又、SL復元運行を通じて市内外の交流を促進することも目的とする。



③ 検討結果

SL復元運行は条件付きで可能と判断

検討委員会が市に検討結果を報告

<条件>

資金調達及び事業継続が可能となる環境を整えること

<計画の策定>

SL運行や、期待される効果、経済波及効果等を取りまとめた「SL復元を通じた地域活性化計画」を策定

② 検討組織

SL復元検討委員会（令和5年11月設立）

- ◎構成…地域代表者、市観光協会等の関係者ら9人
- ◎検討…SL復元の可能性、SL復元を通じた地域の魅力発信、観光産業の振興
- ◎会議…SL復元検討委員会・・・計6回
SL復元検討部会、特産品観光部会、環境整備部会・・・各3回
- ◎市民説明会
- ◎市民意識調査



④ SL運行想定

- | | |
|-------|---------------------------------|
| ◎運行日 | 土日祝日の年間150日 |
| ◎区間 | 恵那～岩村～明智駅を3往復 |
| ◎運賃 | 明智～恵那間 1,690円（運賃690円+指定席1,000円） |
| ◎SL車両 | 2両 C12 244、C12 74 |
| ◎客車 | 車両（気動車）を改良 |



⑤ リニア開業とSL復元運行に期待される効果

蒸気と共に歩む未来～SL復元プロジェクト～

変わる恵那のくらし

- ・知名度の向上
- ・交流人口の拡大
- ・恵那市の魅力度の向上と地域への愛着・郷土愛の向上
- ・SLが走る町としての誇り
- ・SLを生かした地域の活性化とまちづくりの発展

観光産業の発展

- ・全国や世界からの観光客の増
- ・新たな観光資源による地域経済の活性化
- ・地元の企業活動の活性化
- ・新たな雇用の確保
- ・恵那ブランドの強化
- ・移住定住の促進

SL復元運行で地域を活性化

⑥ 経済波及効果

経済波及効果を生み出すためには、地域の皆様の力と創意工夫が必須です！

SLの運行をきっかけに多くの観光客の方が恵那市に訪れ、市内観光商業事業者が付加価値の高いサービスを提供

経済波及効果：13億3,480万円／年

※乗客等1人当たり約2万1千円を恵那市で観光消費



サービスは、首都圏・中部圏家族やインバウンド、友達、おひとり様などの「ターゲット別」に恵那を周遊できるモデルコースを作成して的確に誘客を行い、経済波及効果（観光消費額）の増を図ります。地域の賑わいの創出と受入れ環境整備を加えたものとしている。

SL復元に向けた現在までの取組

⑦SL運行の想定費用と収入

イニシャルコスト **10億7,500万円**(復元までの4~5年間)の財源内訳)

内容	支出額	財源内訳	説明	割合
ボイラー整備、車両整備、整備士・運転士育成、施設整備	4億9,750万円	補助金(国)	デジタル田園都市国家構想交付金等(1/2)	47%
	8,000万円	補助金(県)	清流の国補助金等(1/2)	7%
	4億9,750万円	市負担	企業版ふるさと納税、個人ふるさと納税、クラウドファンディング、協賛、地方債、市税	46%
計	10億7,500万円			
				100%

ランニングコスト**1億5,600万円/年**(6年間の平均支出額 9億3,600万円/6年)

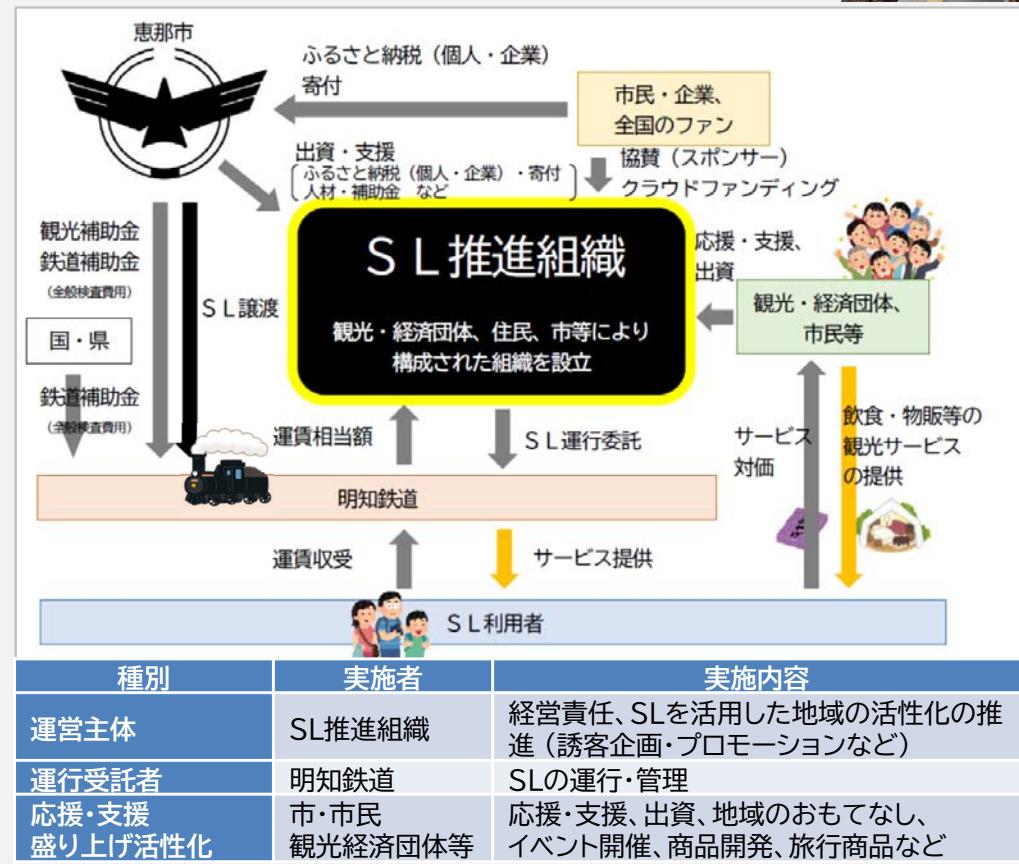
内容	支出額	支出額内訳	財源内訳	説明	割合
全般検査	6億円	2億円	補助金(国)	鉄道軌道安全輸送設備等整備事業等	33%
			補助金(県)	鉄道輸送高度化事業	17%
	1億円	補助金(市)	(ふるさと納税、クラウドファンディング、協賛、地方債、市税)	鉄道施設老朽化対策事業	17%
				修繕引当金 明知鉄道負担分	33%
				3,450万円 ふるさと納税、クラウドファンディング、協賛	
	5,900万円	運賃の一部			
維持管理費	1億9,200万円	1億9,200万円	運賃の一部	3,200万円×6年間	—
人件費	1億4,400万円	1億4,400万円	運賃の一部	2,400万円×6年間	—
合計	9億3,600万円	9億3,600万円			100%

運賃収入見込み **8,550万円/年**

内容	数値等	備考
1両当たり定員	44 人	10形(40人)と100形(48人)の平均値
車両数	2 両	
平均乗車率	70 %	第1・6便是50%、その他は80%とする と平均70%
運賃・料金 (特急券)	大人 1.6 千円 小人 0.8 千円	他地域のSL運賃・料金から
利用者全体に占める小人の割合	10 %	
1日当たり片道運行回数	6 回/日	変則3往復
年間運行日数	150 日/年	
計	85,498 千円/年	延べ乗客数:約370 人/日 約55,500 人/年

⑧運営体制

新たな組織を立ち上げ、SL運営推進の母体となって責任を明確化するとともに、地域の観光・経済団体や住民と相互に知恵を出し合って、波及効果を高められる仕組みを目指す。



⑨今後の取組みの方向性

市として、SL復元運行及びSL復元を通じた地域活性化に向けた取組みに当たっては、SL復元検討委員会の検討結果を尊重しつつ、リニアを生かした夢のあるまちづくりの実現を目指していく。



※本資料はSL復元検討委員会の結果であり、SL復元運行が決定したものではありません